



THE FUTURE OF ROTARY
IS IN YOUR HANDS

2009-2010 年度 RI テーマ
「ロータリーの未来は、
あなたの手の中に」
RI 会長 ジョン・ケニー
地区ガバナー 村上 有司



Kainan East
JAPAN



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1604 回例会

平成 22 年 2 月 15 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4 階
新会員卓話 倉橋 利徳君 前田 克人君

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」
3. 出席報告
会員総数 69 名 出席者数 47 名
出席率 68.12% 前回修正出席率 79.71%

4. 会長スピーチ 会長 花畑 重靖 君

みなさんこんにちは。
本日の新入会員卓話は、
倉橋利徳君と前田克人君です。よろしくお願
いします。本日は朝か
ら「温山荘園」でした。
神出政巳海南市長と今、
帰ってきたところです。

昨日、県民文化会
館で紀州路民謡全国大
会が開催されました。

海南文化協会の邦楽研究部からも出演しました。日本
民謡の名曲を多く出している小沢千月先生と、その一
行、そして和歌山県民謡連合会の一行を「温山荘園」
に呼んでです。温山荘は長年の宿題が叶い、先ず庭園
の方がこの 2 月に国の名勝に指定され、続いて本館、
茶室等が 3 月に指定されることになりましたので、そ
れを記念に開かれています。海南音頭は、昭和 33 年
に三波春男が歌い、上山玄海作曲で海南文化協会が選
定しています。市長の CCS の上山玄海様の前で海南
音頭を歌いました。日本のトップ伴奏のもと、ちなみ
に市長は中学のときの音楽は「5」とのこと。また、
海南小唄は、海南文化協会選定で谷口詩郎作詞、北原
雄一作曲 北村輝美編曲・唄 (平成 22 年)

一. ハ～

春が来たとして うすべにつけた
ヨイトサッサ
東畑から 梅だより
ヨイトヨイトヨイト



エンヤコラサノー

コラヤノサッサ

二. ハ～

黒江漆器の 艶良い品に

そえてうれしや夫婦箸

夫婦箸

と、八番まで続きます。

海南音頭も海南小唄も海南文化協会の選定ですが、
本日の新人卓話の倉橋君のおじいさんも海南文化協
会で活躍されました。また、私が今教えに行っている
写真クラブの先輩です。そして、立派な写真集を出版
しています。時間の関係でこのことと和歌山弁につい
ては次の機会に話させていただきます。

それと、もう一点だけ、和歌山県植物公園緑花セン
ターへ 12 日、花の写真の審査に行きました。大阪を
はじめ沢山の力作のなか、山田様の写真が 2 番(銀賞)
でした。おめでとうございます。

6. 幹事報告 幹事 寺下 卓 君

○例会臨時変更のお知らせ

那智勝浦 RC

2 月 18 日(木) → 2 月 21 日(日) 8:30～

「南の島の雪まつり」会場
ポリオプラス募金活動のため

○3 月ロータリーレート

1 \$ = 90 円

7. 新入会員卓話

○倉橋 利徳君

黒江で昨年 10 月よりク
リニックを開業していま
す。内視鏡を専門にしてい
まして、本日は自分の経歴
と内視鏡についての話を
したいと思います。大学は
東京にある昭和大学出身
で、卒後は大学の内科の医
局に入局いたしました。内
科には大きく 3 つありま



して、肺を専門とする呼吸器内科、心臓を専門とする
循環器内科、消火器疾患を専門とする消火器内科があ
ります。自分は内科の中でも検査に興味があったので

四つのアスト 言行はこれにてらしてから

- ① 真実かどうか ③ 好意と友情を深められるか
② みんなに公平か ④ みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 花畑 重靖 幹事: 寺下 卓 SAA: 名手 広之

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

消火器内科の医局に入局しました。消火器内科の中でも専門が分かれていて大きくわけて 3 つのグループがあります。肝臓を専門とする肝臓グループ、胆道、膵臓を専門とする胆膵グループ、胃や大腸を専門とする消化管グループがあります。自分は消化管グループに属していて特に大腸を専門とし、大腸内視鏡診断と治療を主として診療を行ってきました。大学病院での内視鏡検査は、主に消火器内科が行い消化管グループを中心に行われています。消化管内視鏡検査には、上部内視鏡検査（いわゆる胃カメラ）と下部内視鏡検査（いわゆる大腸カメラ）があります。最初に胃カメラの検査をみたときは、今のように鎮静剤（いわゆる眠り薬）を使う習慣もなくみんなつらそうにしていたのが印象的でした。自分も内視鏡をするからには検査を受けなくてはならないと先輩に勧められ、胃カメラをうけましたがものすごく辛かったのを覚えています。しばらくは検査を受ける気にはなれませんでした。30 代の後半よりそろそろ定期 check が必要と思い鎮静剤を使って胃カメラをうけたところものすごく楽に検査をうけられて魔法の薬だなと思いました。

その後はつらいと思うことなく毎年定期 check を受けています。次に大腸カメラについてですが、最初みたとき、患者さんはみんな痛がっていて、施行者の先生がもうちょっと我慢してと言いながら長時間検査をしているのが印象的でした。終わったあと、もう二度とこの検査をうけませんと言って帰る患者さんもいました。当時は辛い検査なんだなと思っていました。その後、医者になって 5 年目にがんセンターで 1 年研修する機会がありました。そこに大腸のものすごく上手な先生がいて衝撃をうけました。藤井先生といまして現在は銀座で開業していますが、すごい先生でした。最初大腸カメラをみたときびっくりしたのを覚えています。ものすごく検査が早くて、患者さんも痛がっていないんですね。患者さんも楽だから毎年うけにくるので自分のいた病院とのすごいギャップを感じました。それ以来苦痛のない内視鏡検査をしようといままで頑張ってきました。卒後 10 年目に昭和大学横浜市北部病院という新しい病院ができて、その消火器センターの教授に就任したのが工藤先生で、すごく有名な先生で大腸の世界では日本のトップにいるような先生でした。

自分もその施設で働くことができ非常にいい経験をしました。全国からいろいろな先生が工藤先生をしたって集まってきて、検査件数ものすごく多かったので自分も成長することができたと思っています。3 年前に和歌山に帰ってきて、和歌山労災病院の内視鏡センターに勤務したのち今回クリニックを開業いたしました。

次に内視鏡検査の利点ですが、直接映像がみえて、即座に診断ができ、内視鏡での治療もできることだと思います。近年我が国のがんによる死亡者数は増加しており、死亡原因の第一位を占めるようになりました。その中でも胃がんや大腸がんは上位にいます。胃がんは減少傾向にありますが、大腸がんは増加しています。大腸がんの増加の原因としては食事の欧米化などが

いわれています。内視鏡診断と治療の進歩により早期発見、早期治療が可能となってきました。胃がんや大腸がんは、早く見つければ内視鏡治療だけで治療できる病気なのです。早期に発見するためには、症状のない間に内視鏡検査での定期的な健診が重要と考えられます。女性の癌のなかで大腸がんが一番多いですが、恥ずかしいなどの理由で症状がでるまで検査をせず、発見が遅れることもあります。また大腸がんは腺腫からできるといわれています。腺腫は大腸の良性のポリープのことで、そのままにしておくと中には大腸がんになるものもあるといわれています。アメリカのデータでは、ポリープを切除することにより大腸がんでの死亡率を減少させたといわれています。無症状のうちに検査をうけることが重要であり、ポリープの有無により大腸がんの発生頻度が変わってくるといわれています。

大腸がんの検診に便潜血検査が広く用いられていますが、検査で陽性になっても精査しないことも問題となっています。実際の内視鏡検査の方法ですが、検査前日まで普通の食事をしていただき、寝る前に錠剤の下剤を服用していただきます。検査当日は 1. 8L の下剤を服用していただきますが、ポカリスエットに似た味で以前のものより非常に飲みやすくなっています。検査後のガスによる腹部膨満もつらい原因の 1 つですが、当院では二酸化炭素を使用することにより吸収をよくして、検査後の腹部膨満を減少させます。内視鏡検査はつらいイメージをお持ちの方も多いと思いますが、実際はそれほど辛くはないので便潜血陽性の方や定期 check したいという方はぜひうちのクリニックに来てください。あとこの 4 月から海南市では、胃がん検診で内視鏡検査も選択できるようになりましたのでよろしく願いいたします。

○前田 克人君

会社の沿革は、創業者が祖父で、大正 10 年に棕櫚製品の製造を始めました。戦後は現会長も従事し、S24 年（有）前田商店設立。棕櫚、パーム製品を西日本で販売しました。

- ・長崎（S29）、下関（S30）へ出張所開設
- ・S37 年 合織ロープ製造開始
- ・S47 年 前田ロープ工業（株）設立

事業所

- ・本社工場 海南市阪井
- ・第 3 工場（阪井）、第 5（紀美野町吉野）、第 7 工場（紀美野町下佐々）

・長崎営業所、下関営業所

製造販売品目

- ・合織ロープ（3 ツ打、8 ツ打）
- ・無結節網（ゴルフネット、バッティングネット、養殖生糞網等）



どのテーマがロータリアンだけに呼びかけるもので、ロータリアン以外の人にロータリーとは何かを説明するテーマがほとんどないことに気がつきました」と述べました。そこで彼は、「ロータリアン以外にロータリーの目的を説明すること」「ロータリアンに自分たちの活動の意義を再認識してもらうこと」を満たす簡潔なテーマを探す決心をした、と述べ、その過程で四大奉仕部門を再検討したことを紹介しました。その上で、海外と地元地域の両方で活躍するロータリアンのユニークな存在をどのように表せばよいのかと



いうことを考えたことを伝えました。

ロータリーがロータリークラブの連合体であると同時に、奉仕の精神から成り立っていること、そして私たちは中核となる価値観＝奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップを忘れてはいけません。それが私たちの組織の神髄です。いろいろな言葉を考え、私が選んだのは、ロータリーの今の使命として一番いいのは、『地域を育み、大陸をつなぐ』というテーマです」と、新年度のテーマを発表しました。テーマが発表されると、会場からは拍手が起きました。

クリンギンスミス氏は、「私たちが時間と労力という代償を払うことができるならば、私たちは必ず成功することができます。120万人というロータリアンの数は、世界人口が60億人であることを考えれば、小さな数字かもしれません。しかし、著名な文化人類学者マーガレット・ミードの貴重な言葉を思い起こしてください。『思慮と熱意のある少数の人々に世界を変えることはできないとみくびってはいけません。実際には、そのような少数の人間が、世界を変える唯一の方法なのだから』。これからも良い世界へと私たちは努力します。このような不況下にあっても私たちはできるのです。来る年度を成功へと導くために必要なのは、ロータリアンが熱意を抱き、世界一得意としていること、すなわち『地域を育み、大陸をつなぐ』ことに、専念するよう、力の限り、クラブと地区を励ましていくこと、それだけなのです」と結びました。

今回の国際協議会では、それぞれの本会議の最初に、「ロータリアンが変化をもたらす」という短いスピーチがあり、スピーカーは、母国語で話をしました。第2回本会議では、女性で初めて国際ロータリー(RI)理事になったカトリーヌ・ノワイエ・リボー氏がフランス語で話しました。彼女は、2005年のロータリー100周年の折、ゾーン11のガバナーたちの活動を紹介。

「同じ日、同じ時、250軒の映画館に5万人の人たちが映画を見に行くという活動です。映画の配給会社、映画館のオーナーとパートナーを組み、ロータリーク

ラブがチケットを販売して、収益の3分の2を医療献金に充てるというものです。目標の50万ドルに対し100万ドルが集まりました。ロータリーでは、同時にフランスの脳関連障害の団体であるFRCとパートナーを組み、同障害の研究に取り組みました。このプロジェクトの成功は、持続性を確実にしました。3世代にわたるゾーン11のガバナーが常に協力をしました。国際ロータリー広報補助金で7分のロータリーの映画を作成し、映画の始まる前に見せられました。シネマを媒体として、行動を通してメッセージを伝えることが優先事項になっています」と紹介、「私たちは希望をもってやっています」と結びました。

次に、2010-11年度RI会長強調事項について、ビデオで紹介され、「ロータリーの発展」として、元RI会長のクリフォード・ダクターマン氏が、「ロータリーの奉仕の発展」というテーマで話をしました。

ダクターマン氏は、RI会長強調事項について、「皆さまが実施し、推進されているプログラムに対し、このような明確なビジョンを地区ガバナーに与えられたことはあまりありませんでした。これらは新しいプログラムというわけではありませんが、ロータリー世界の活動に焦点を定めるものです。ロータリーのプログラムがどのように生まれ、発展してきたのかを真に理解する経験をしたことのあるロータリアンは、ごくわずかしかならぬでしょう。ロータリーのプログラムは、RI理事会や財団管理委員会が始めたものではありません。すべてのプログラムは、ロータリアンが、ニーズがどこにあるか、自分たちのクラブで何ができるのかを考えて、素朴な想像力のあるアイデアを提示して生まれてくるものです」と述べ、ロータリーのプログラムの始まりについて話し始めました。

ダクターマン氏は「ロータリーのプロジェクトは無数にあります。なぜならば、世界のニーズにも限りがないからです。本日、私が皆さまに伝えたいのは、私たちがただ例会を開き食事を共にする以外に、まだたくさんすべきことがあるということです。100年以上にわたって、プログラムは発展を続けてきました。すばらしいプログラムのアイデアが、まだ皆さまの思考の中に眠っているかもしれません。すぐれた活動は、皆さまが、クラブと地区に情報を伝え、活動を起こすよう意欲を喚起し刺激したときに生まれてくるのではないのでしょうか。そのような喜び、本当の充実感をまだ味わっていないというロータリアンがたくさん存在しているということは、とても悲しいことだと思います。ガバナーとして、皆さまは先頭に立っていく必要があります。過去の功績は、ロータリーの未来の序曲にすぎません。会長強調事項をもって、皆さまはもっといい仕事に携わることができるのです。それは皆さまにかかっているのです。ぜひ、実践に移してください」と結びました。

